

15年
12月号

社長の夢

(C.S.S)平成15年12月7日

11月12日に私共のお客様である、セントラルサービスシステムの社長である野口卓様が51歳という若さで亡くなりました。私と同じ年です。野口社長と私との最初の出会いは、昭和60年の夏です。私は南業して3年目です。社員は妻1人。結婚7ヶ月頃です。事務所は私の自宅のある吉野ビル301号室。突然、入って来て、「今度経理を頼むよ」とあわわろげに突然言われて、私も妻も少々びっくりしたものです。場所は同じマンションの2階でした。セントラルさんは品川区が本店移転して来たばかりのときでした。私と野口社長とは性格も全々違うものですが、一緒に酒を飲むということはありませんでしたが、経理の打ち合わせで同席すると、自分の仕事に対する誇りと自信にあふれていました。私と同じ年でこんなに自信を持つことの凄さを感じました。また上場するにあたって何のためか上場するがという目的についても、会社で皿洗いをしている人達の仕事を世の中に認知してもらうこと。そのために呼び方を英国の貴族のパーティーを仕切る仕事をしている人から「スチワート」と名付けたと聞きました。今年の私共の経営計画発表会にも講演していただきました。去年の6月に店頭公開し、多忙なうえに病气療養中のところを来ていただき感謝しています。その講演の中で国旗を掲げ、国家を歌っておぶれますが、本当の国旗、国家の由来を知っている人、手をあげて下さいと言われて、私は手をあげられませんでしたが、それがくやしくて私はいつもカバンの中に由来を書いたメモを持ち歩いています。

会社の成長とともに人も成長するものなのでしょうか。それとも、もとより才能が会社の成長とともに開花するものなのでしょうか。この10年間の野口社長の言動や毎月送っていただいているC.S.Sの「かわらばん」を読ませていただくこと、こんなすごい文章がどうして書けるのかと、物事の本质をすばり言っている「もの見方」「考え方」は気づかされることばかりでした。その文章を私がマーカーも引いて全社員に読んでほしいと、事務所内で回覧しています。この文章をC.S.Sさんが野口卓語録としてまとめて下さったので是非多くの方々に読んでいただきたく、今日の資料として添付させていただきます。

社長の夢は社員とともに、お客様とともにあります。社員が育つてくれているのだろうか。うちの会社で働いてくれば社員は幸せなのだろうか。それが、面倒も見られるだろうか。不安の中で自分の夢を社員の人達と共有し、共に成長したいという強い想い。またお客様には、信頼されたい。飲んでおぶえて、できた感謝され、尊敬される仕事をしたい。という強い想いを持つ。その夢に向かって走っているのが中小企業の社長です。来年も「夢に目付と数字」を入れて、経営理念を実現するために頑張っているところではありませんか。

古田土 満